

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	はり実技1	
科目基礎情報					
開設学科	鍼灸科	コース名		開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	45時間
単位数	1単位	授業形態	実技		
教科書/教材	東洋療法学校協会 指定教科書				
担当教員情報					
担当教員	山下 俊樹・安藤 亮	実務経験の有無・職種	有・鍼灸師		
学習目的					
<p>鍼灸治療の基礎となる鍼（はり）の操作全般を学び、正確で素早い操作での片手挿管法、押し手や刺し手の圧の加減、切皮・断入操作の基本を身につけ、人体への刺鍼手順とその注意点、禁忌事項などを含め学習する。自身の体への刺鍼から対人刺鍼へステップアップし、2年次の応用刺鍼スキルの修得のための基礎技術を身につけることを目的とする。</p>					
到達目標					
<p>鍼を刺入するための基本技術を修得し、安全かつ正確な鍼を全身に刺入できることを目標とする。目的とする部位へ正確な深さ、角度で鍼を刺入できること、また適切な刺激を加えるための正しい手技操作の獲得を目標とし、決められた時間内において、複数箇所へのツボを適切にとらえ、指示された操作で正確な鍼を刺入できる技術を身につけるとともに、灸頭鍼などの特殊鍼法の操作技術習得もめざす。</p>					
教育方法等					
授業概要	消毒や血圧測定をふくめ施術の基本操作技術について実習します。練習台を用いて刺鍼練習を行い、基本操作を身につけていきます。旋撚刺法による銀鍼の刺入法から、ステイスポーザブル鍼の送り込み刺法などを修得し、直刺、斜刺、水平刺などの基本操作を修得したのち、自己刺鍼へとステップアップします。15回目までに対人刺鍼の基本を学び実践します。				
注意点	授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示がある場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。				
評価方法	種別	割合	備考		
	試験・課題	100%	実技試験		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
平常点	0%				
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	今後の授業の進め方 鍼灸セット確認 注意点などの確認	実技室の使用ルールや、道具の名称を理解する			
2回	片手挿管法練習 グループ指導	基本的な鍼・鍼管の操作を身につける			
3回	基本刺鍼動作練習①(弾入)	片手挿管法を理解し、合理的な動きを修得する			
4回	基本刺鍼動作練習①(弾入)	片手挿管法を理解し、合理的な動きを修得する			
5回	片手挿管小テスト(8回/分以上)	正確で素早い動きを身につけ、基本動作を修得する			
6回	基本刺鍼動作練習②(弾入・旋撚術)	鍼の断入・切皮の基本動作を身につける			
7回	基本刺鍼動作練習③(斜刺・水平刺)	斜刺や水平刺などの操作について理解し実践できる			
8回	基本刺鍼動作練習④(銀鍼)	銀鍼の操作および、旋撚刺法を理解し実践できる			
9回	基本刺鍼動作練習④(銀鍼)	銀鍼の操作および、旋撚刺法を理解し実践できる			
10回	基本刺鍼動作練習⑤(総合練習) 安全な刺鍼のための消毒手順説明	消毒の基本を理解する			
11回	銀鍼テスト	旋撚刺法を用いた銀鍼で目的の深さへ正しく刺入できる			
12回	血圧測定実習	血圧測定の基本を理解し、機器の操作ができる			
13回	血圧測定実習	血圧測定の基本を理解し、機器の操作ができる			
14回	自己刺鍼練習	安全に自己刺鍼ができる			
15回	自己刺鍼練習	安全に自己刺鍼ができる			

授業計画（15回～23回）		
16回	自己刺鍼練習	安全に自己刺鍼ができる
17回	銀鍼テスト	旋撚刺法を用いた銀鍼で目的の深さへ正しく刺入できる
18回	対人刺鍼(下腿)	対人（足部）へ負担なく正しく刺入できる
19回	対人刺鍼(下腿)	対人（足部）へ負担なく正しく刺入できる
20回	手部の刺鍼	対人（手部）へ負担なく正しく刺入できる
21回	手部の刺鍼	対人（手部）へ負担なく正しく刺入できる
22回	前腕、手関節の刺鍼	対人（前腕部など）へ負担なく正しく刺入できる
23回	前腕、手関節の刺鍼	対人（前腕部など）へ負担なく正しく刺入できる